

2026 年度第 3 回価格審査会の開催について

2026 年度第 3 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2026 年 6 月 16 日(火) 10:00～12:00		
場 所	本部 6 F 大会議室		
委 員	松田 寛志	日本工営株式会社	日本地域統括（兼）東京支店長
	遠藤 和重	一般財団法人日本建設情報総合センター	
		システム事業部門	コリンズ・テクリスセンター長
	鈴木 由香	株式会社日本設計	コスト設計部長
	星野 正	東日本旅客鉄道株式会社	東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
	松本 尚佳	東日本建設業保証株式会社	業務部 副部長
当 会	共通資材調査部	部長：小林 法雅、次長：南 昌宏	
	建築調査部	部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢	
	監査審査室	室長：黒澤 昭浩	
	調査統括部(事務局)	部長：大澤 勝、課長：竹屋 宏樹	

☐2026 年度第 2 回価格審査会議事録(案) 確認

☐2026 年度第 3 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」7月号、「Web 建設物価」7月号	「土木コスト情報」夏号、「建築コスト情報」夏号の価格調査の入稿状況
・ 価格が上伸した資材（工事費）	【Web 建設物価】 異形棒鋼（青森市ほか28都市）、H形鋼（青森市ほか34都市）、レディーミクストコンクリート（普通セメント使用）（旭川市ほか44都市）、再生砕石類（青森市ほか3都市）、コンクリート型枠用合板（札幌市ほか55都市）、アスファルト混合物（函館市ほか167都市）、600Vビニル絶縁電線（IV）（全国）、鉄スクラップ（全国）ほか。 【土木コスト情報】 <市場単価>インターロッキングブロック工（福岡県ほか6都市）、橋面防水工（全国）、コンクリート表面処理工（ウォータージェット工）（全国）。 <標準単価>区画線工（全国）、橋梁塗装工（全国）、構造物とりこわし工（全国）ほか。 【建築コスト情報】 <市場単価>アスファルト防水工事（全国）、シーリング工事（全国）、軽量鉄骨下地工事（全国）、左官工事（全国）、吹付工事（全国）、ガラス工事（全国）ほか。 <標準施工単価>防水工事（全国）、屋根及びとい工事（全国）、金属工事（軽量鉄骨下地・壁）（全国）、左官工事（全国）、吹付工事（全国）、ガラス工事（全国）ほか。

- ・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

遊器具―ブランド品―（全国）、テーブル・ベンチ―ブランド品―（全国）

【建築コスト情報】

＜市場単価＞防火区画貫通処理工事（全国）

2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	合板が大幅に値上がりしているが、主な要因は輸入価格の上昇によるものか、それとも国内流通段階でのコスト上昇によるものか。また、接着剤など副資材価格の上昇は価格にどの程度影響しているのか。	コンクリート型枠用合板は、産地原木の高値・為替の動き・輸送コスト増による輸入価格の上昇が主因である。一方、構造用合板は、国内の原木価格の高止まり、接着剤など副資材の価格上昇、輸送コスト増が影響している。合板の需要は低調だが、中東情勢による供給面への警戒感に残っており、引き続き注視が必要である。
質問 2	断熱材・アスファルト防水材・内装材など、メーカーの大幅な値上げ発表が相次いでいるが、実際の流通における浸透状況はどうか。	断熱材はメーカーが4月・5月出荷分から値上げを打ち出し、流通筋も仕入れ価格の上昇に応じて販売価格への転嫁を進めており、値上げの浸透は早い。アスファルト防水材も同様に早期に浸透している。内装材については、メーカー各社の値上げが7月受注分より予定されており、先行き強含みの状況である。
質問 3	鉄スクラップの国内需要は盛り上がっていないとみられるが、今月の価格上昇は海外価格の上昇に起因しているのか。	今月は1,000円の小幅上伸であり、円安等の影響によるものが大きい。また、直近3～4か月の累計では約10,000円上昇しているが、こちらも東南アジアを中心とする海外需要（輸出主導）によるものである。
質問 4	土木コスト情報における土木工事標準単価の変動理由にある、機械損料の改定は国交省の機械損料と連動しているのか、それとも調査会独自の改定か。	機械損料は、国交省が公表する数値を使用している。3月上旬時点では未公表であったため、4月号には反映できず、7月号での反映となった。

質問 5	アスファルト混合物の価格上昇が近畿・四国地区に集中しているが、特定の事業がきっかけか。また今後、他地域へ波及するか。	中東情勢の影響によるストレートアスファルト価格の急騰で製造コストが増加したことから、メーカー各社は大幅な値上げを打ち出しており、先月以降、アスファルト混合物の価格は全国的に上昇している。値上げの浸透状況は地区によって異なり、大阪地区や四国地区では段階的に浸透したため、先月に続き今月も上伸した。一方、北海道など先月に動きがなかった地区では、今月に入り大幅に上伸した。中東情勢の動向に左右されるものの、値上げの浸透が十分でない地区では、引き続き上昇傾向が続く見込みである。
質問 6	労働保安用品（ブランド品）が、大幅に値上がりしている理由は何か。	値上がりした製品は、凍結防止剤等を収納する樹脂製ボックス（パンドラーボックス）であり、中東情勢緊迫化による樹脂系製品の値上がりとメーカーの数年ぶりの価格改定が重なり、大幅な上伸となった。
質問 7	国土交通省は、猛暑対策として猛暑期間の工事抑制・発注平準化を進めている。こうした発注時期のシフトは、建設資材の価格に影響するのか。	資材価格への影響は、限定的であると認識している。ただし、歩掛に変動があれば、工事費全体としては影響が出ると考えられる。
質問 8	建設機械用潤滑油は、値上がりしている品目がある一方、「－」（市場性なし）となっている品目もある。どのような状況か。	建設機械用潤滑油は品種が多く、製造できるメーカーが限られている品目がある。需要がなくなった製品は廃盤・掲載削除の対象となるが、今回は値上がりした製品と掲載削除された製品が同時に生じたものである。なお、中東情勢の影響によるものではない。
質問 9	アスファルト混合物は全国的に値上がりしているとのことだが、一方で掲載がなくなった品目もある。なぜか。	全国的に価格は上昇しているが、規格によっては出荷量が減少しているものもある。調査では、価格変動と流通状況の両面から市場の動向を確認しており、市場性が失われ価格調査が困難となった品目については、「－」（市場性なし）または「…」として価格掲載を見合わせている。
質問 10	中東情勢の影響で建設資材価格が大きく変動するなか、見積書の有効期限を短縮する動きはあるか。	価格の先行きが見通せないことから、見積有効期限を短縮する動きが見られる。加えて、納期そのものを提示できない資材も多く出てきている。

質問 11	九州地区の馬毛島では、防衛施設の強靱化として防衛省の大型プロジェクトが発注されているが、これが建設資材価格に影響を与えているか。	防衛省発注工事は全国各地で実施されており、その影響は工事規模や地域全体の需要に占める割合によって異なる。なお、ご質問の大型プロジェクトは、鹿児島曽於地区における生コンクリートの需給環境に一定の影響を及ぼしている。また、防衛省は中東情勢を踏まえたスライド条項に関する通達を発出するなど、受注者が円滑に工事を遂行できる環境整備を進めている。
質問 12	再生アスファルト混合物の値上げ分がまだ本来のコストに見合っていないようだが、市場縮小によるものか、コスト増加によるものか。背景を教えてください。	値上げの浸透が十分でないとする地区は多い。コスト増加の背景として、短期的には中東情勢の影響によるストレートアスファルト価格の高騰、長期的には出荷数量の減少に伴う固定費負担の増大が挙げられる。出荷量が伸び悩む要因としては、工事費の上昇による発注工事の減少や施工規模の縮小も懸念されており、引き続き価格上昇圧力が続く見込みである。
質問 13	コンクリート型枠用合板が3月号で値上がりし一旦落ち着いた後、7月号で一気に上昇した。背景を教えてください。	需要は低調に推移するなか、流通筋では現地価格の高止まりや円安による輸入コスト増加分を段階的に販売価格へ転嫁してきた。しかし、採算面での余地が限られてきており、価格転嫁の動きが一段と強まっている。このため、先行きも強基調の見通しである。
審議結果	「建設物価」7月号、「Web 建設物価」7月号 「土木コスト情報」夏号、「建築コスト情報」夏号の価格動向には問題がなかった。	

以 上